様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２２３８

研究課題名（和文）冷戦期東アジアの科学技術広報外交に関する国際比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study of Public Diplomacy through Science in Cold War East Asia

研究代表者
森口　由香（土屋由香）（Moriguchi, Yuka）

京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：９０２６３６３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,000,000円

研究成果の概要（和文）：国内外における資料調査、オンラインおよび対面での研究打合せ、そして２０２０年１月に京都大学で開催した２日間の合宿ワークショップを経て、共同研究の成果を、日本語・英語を・中国語の３か国語で共著書として出版した。日本語版『文化冷戦と知の展開－アメリカの戦略・東アジアの論理』は京都大学学術出版会から、中国語版は台湾の麦田出版から、英語版はインディアナ大学出版会から刊行される運びとなった。国際共同研究を通して、東アジアの複数地域において、米国政府や民間財団が行った学術支援がしばしば共通していたこと、しかし各地域のローカル事情によって異なる結果を生み出していたことが浮き彫りになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本科研によって、日本・中国・台湾・韓国・アメリカを活動拠点とし、専門分野も日本史、アメリカ史、中国・台湾史、韓国・朝鮮史、メディア・ジャーナリズム史、外交史、科学史と多様な研究者１５名が共同研究を行い、共著書を３か国語で出版できたことは、冷戦期東アジアの知の構築過程について、これまでには無かったような俯瞰的・比較的な視点をもたらしたという点で、重要な学術的意義があったと考えられる。また、こうした国際的・学際的な共同研究を通して得られた経験は、それぞれの研究者の母国における今後の教育・研究活動をより豊かにするという点で、専門分野の枠を超えた社会的意義もあると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Throughout the research period, the international collaborative research group carried out both domestic and international archival researches, many on-line and on-sight meetings, and finally in January 2020, held a two-day on-sight workshop at Kyoto University. Through all these activities, the group has developed a publication project in three languages. The edited volume (_Knowledge Production in Cold War Asia: U.S. Hegemony and Local Agency_) was published in Japanese language by Kyoto University Press, and the Chinese version (Rye Field Publications) and the English version (Indiana University Press) are forthcoming. The international collaborative research has demonstrated that the US government and private philanthropic organizations offered very similar kind of aid programs to East Asian countries during the early Cold War era, while local agencies of each country or region worked to produce very different outcomes.

研究分野：研究分野/地域研究/西洋史/地域研究/小区分80010:地域研究関連

キーワード：冷戦　アメリカ　東アジア　学知　地域研究　科学技術　ジャーナリズム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

冷戦期の文化や広報外交についての既存研究は、2000 年代以後、豊かに蓄積されてきたが、1950～60 年代の東アジアにおける科学知や学術知の形成過程に国際関係、特にアメリカとの関係がどのような影響を及ぼしたのかという点は、比較的看過されてきた。また、このようなテーマに関心をもつ研究者たちは、所属するディシプリンや、研究対象とする地域、使用言語、学術活動拠点とする国や地域等によって分断され、分野や地域を横断して比較的な視点から共同研究を行う機会には恵まれなかった。そこで本科研において、日本・中国・台湾・韓国・アメリカを活動拠点とする研究分担者・協力者たちが、冷戦期東アジアの知の構築について俯瞰的・比較的な視座から共同研究を行うことは、学術的意義のあることだと考えられた。

また、従来の研究がアメリカを中心とする大国から諸外国への一方向的な影響力に焦点を当てる傾向があったのに対して、本研究は東アジア諸国のローカル事情や、東アジアから西洋諸国に、あるいは他のアジア諸国に対しての影響力にも焦点を当てることで、学術的貢献をなすことも期待された。

研究開始前には、科学技術をテーマとした冷戦期の広報文化外交が、現実政治にもたらした影響を実証的に分析する予定であったが、実際に共同研究が開始すると、広報文化外交という枠組みにとらわれず、冷戦世界の各地域を戦略的に「知る」ための地域研究、政治的ヘゲモニーと密接に結びついた科学技術、そして学知や専門知に基づいた情報を「伝える」ためのジャーナリズムという３分野における知の構築、そしてそれに関連する東アジアとアメリカとの相互関係へと関心が拡がって行った。

２．研究の目的

本研究は、科学技術をはじめとする「学知」が、冷戦期の国際政治との相互関係の中でどのように形成されて行ったのかを、アメリカと東アジアの関係に焦点を当てて探求する国際共同研究である。冷戦期の学知の形成は、国のイメージ向上を目指す広報文化外交と密接に結びついていた。本研究はアメリカから東アジアに向けての広報文化外交のみならず、東アジア諸国から欧米の大国へ向けて、あるいは他のアジア諸国に向けての広報文化外交にも着目する。さらに、広報文化外交という枠組みだけにとらわれることなく、学知の形成にかかわっていた大学・非営利団体・個人など、多様な主体の役割を詳しく分析し、国家中心の視角を越えた冷戦期の国際関係を描き出す。

日本・中国・台湾・韓国・アメリカを活動拠点とし、その専門分野も日本史、アメリカ史、中国・台湾史、韓国・朝鮮史、メディア・ジャーナリズム史、外交史、科学史と多様な十数名の研究者たちが、冷戦期東アジアの知の構築という共通関心の下に共同研究を行うことによって、俯瞰的・比較的な視点でこの分野を再検討することを目的としている。冷戦期東アジアにおける知の構築は、米ソによる資金援助とそれに伴う政治力学の下で推進された一方、分断国家の事情や植民地主義の遺産など、冷戦以外のローカル要因も重要な役割を果たした。本研究では、こうした様々な要因が東アジアにおける知の構築に与えた影響を分析する。その成果は冷戦史、東アジア国際関係史、アメリカ外交史などの各分野に接続し、新たな知見をもたらすと考えられる。

最終的には、国際共同研究の成果を複数言語（日本語・英語・中国語）で刊行することを目指す。

３．研究の方法

研究分担者・協力者は、マルチ・アーカイバル・リサーチや聞き取り調査を使った実証歴史学研究を行った。例えば、日本・韓国・台湾・アメリカ・中国などの国立公文書館および大学図書館、またロックフェラー財団やフォード財団などの民間財団の文書館において、外交文書や、関連する個人文書・組織文書の収集を行った。研究分担者・協力者はそれぞれ、収集した史料の整理・読解・分析を行い、日本研究・中国台湾研究・韓国朝鮮研究・原子力技術・生物学・ジャーナリズム教育などの各分野で、いかなる組織や人物が支援を行い、影響力を行使し、どのようなローカル要因が知の構築過程に作用したのかを検討した。

2017～2018 年度は、日本側メンバーがオンラインや対面で研究計画および出版計画について打合せを重ね、海外メンバーとは主としてメールで連絡を取り合いながらディスカッションを重ねた。2018 年度には台湾・国立政治大学において、また 2019 年度には韓国・高麗大学校において研究会を開催した。2019 年８月に構成員全員の論文要旨、12 月には第一稿の原稿が提出され、2020 年 1 月 11～12 日に京都大学にて、国内外の共同研究者全員によるワークショップを開催した。この直後に新型コロナ禍が始まり、3 月に共同発表を予定していた Association for Asian Studies 年次大会（ボストン）が中止となった。このため 2020 年度にはメールと Zoom で連絡を取りながら、3 か国語による共著書出版計画を進めた。日本語版は京都大学学術出版会

から刊行されることが決まり、アメリカと台湾の出版社とも交渉を進めた。研究分担者・協力者は、京都大学でのワークショップの結果を受けて最終原稿を作成した。

４．研究成果

４年間の科研共同研究の最終成果となった『文化冷戦と知の展開』（京都大学学術出版会、2022年）は、通常は共同研究を行う機会のないような多様な分野・国籍の研究者たちによる、極めてユニークな共著書となった。それまでの研究会やワークショップでのディスカッションを通して、東アジアの複数地域において、アメリカの政府機関や民間財団が非常に似た内容・方法の学術支援を行っていたことが浮かび上がった。同時に、各地域でそれぞれのローカル事情に合わせた受け入れ方が見られたり、援助受け入れ国の側から援助国への逆のベクトルでの影響力行使が見られたりした。

このように、東アジアの複数国を同時代的に俯瞰・比較して、科学知・学術知・専門知の構築と、その過程における大国の政府や民間財団の支援の影響について検討するというプロジェクトは、既存の冷戦研究や広報文化外交研究には例を見ないものであった。また、学術分野（ディシプリン）の成立史は、当該ディシプリン内で主として回顧的な視点から研究されてきた。それとは対照的に、本研究では、複数のディシプリンの成立史を俯瞰・比較することで、冷戦期の知の構築の特徴を描き出すことが可能となった。

共著書の刊行そのものは、科研期間終了に間に合わなかったものの、「研究の方法」の項で述べた通り、各章の原型はすでに最終年度に出来上がっており、その後は原稿の翻訳・編集作業に時間が費やされた。共著書は３部構成で、第１部「地域研究」（１章～４章）、第２部「科学技術」（５章～９章）、第３部「ジャーナリズム」（１０章～１３章）に加えて３本のコラムをそれぞれの部に配置した。また、中国語版は台湾の麦田出版から、英語版は米国のインディアナ大学出版会から出版されることが決まった。

第１章「冷戦下台湾の中国研究とアメリカ―フォード財団による中央研究院近代史研究所支援を事例に―」（川島真）は、主に1960年代のアメリカによる台湾の中国研究に対する支援を扱い、それがアメリカからアジアへの一方通行ではなく双方向的なものであったことを明らかにした。第２章「冷戦中の協働―1945年～1960年の米国における日本学―」（ミリアム・キングスバーグ・カディア）は、戦後第一世代の日本学研究者たちが、日本の専門家たちの築いた知識と、戦後初期の日本の学術機関との協働に依存していたという事実を掘り起こした。第３章「1960年代の日米間における「近代化論」論争―価値体系と歴史認識をめぐる断層―」（藤岡真樹）は、アメリカ発の近代化論に日本の研究者が接した「箱根会議」を取り上げ、日米の研究者間の知的断層について考察した。第４章「1940年代半ば～1950年代初めにおける米韓知的交流―韓国研究の黎明期におけるマッキューン夫妻とロックフェラー財団―」（小林聡明）は、太平洋戦争期から 1950 年代までの期間における朝鮮/韓国に関する知識の生産メカニズムについて、民間財団や専門家の役割に注目して検討した。第５章「中国の原子力研究の萌芽―内戦と冷戦の間で―」（佐藤悠子）は、1945～50 年代の国共両党による、在外中国科学者の帰国推進政策について論じた。第６章：「ミシガン記念フェニックス・プロジェクトと台湾―アメリカの公立大学による対外原子力技術援助―」（森口由香）は、アメリカの公立大学が、発展途上国向けの原子力技術援助に関与して行く過程を、台湾の事例をもとに探求した。第７章「帝国の科学知―脱植民地化時代の英国の原子力外交―」（友次晋介）は、英国による中東における原子力平和利用政策を取り上げ、アメリカとの差異を浮き彫りにした。第８章「冷戦空間、DMZの再発見―DMZ生態調査の科学政治―」（文晩龍）は、韓国と米国との協力事業であるDMZ（非武装地帯）生態調査の歴史を取り上げ、両国の生物学者らの立場の差異を明らかにした。第９章「開発の殉教者―台湾の農業開発とベトナム共和国、1959～1975年―」（ジェームズ・リン）は、台湾が南ベトナムに派遣した農業技術団が、台湾の対外イメージ構築に利用されたことを論じた。第10章「台湾のジャーナリズム教育に対するアメリカの援助」（藍適齊）は、1950年代にアメリカの対台湾支援の下で進展した台湾のジャーナリズム教育に焦点を当て、華僑・華裔学生の経験を明らかにした。第11 章「冷戦、アメリカの海外教育交流と香港のジャーナリズム・コミュニケーション研究の勃興」（張楊）は、香港の高等教育機関によるジャーナリズム・コミュニケーション専攻の創設に対するアメリカの援助とその限界を論じた。第12章「冷戦期米国のジャーナリスト教育交流プログラムと韓国ジャーナリズムの変化」（車載永）は、アメリカ国務省による韓国ジャーナリズムの近代化プロジェクトに焦点を当て、その限界を明らかにした。第13章「占領期における日本人ジャーナリストのアメリカ招聘プログラムとジャーナリズム教育/ジャーナリスト養成の諸相―ロックフェラー財団・コロンビア大学・GHQ民間情報教育局―」（小林聡明）は、ロックフェラー財団による日本人ジャーナリストのアメリカ招聘プログラムを取り上げ、冷戦を背景とした占領期日本のジャーナリズム教育の歴史を解明した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　14件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 土屋　由香	４．巻 54
２．論文標題 ＶＯＡ「フォーラム」と科学技術広報外交―冷戦ラジオはアメリカの科学をどう伝えたか	５．発行年 2020年
３．雑誌名 アメリカ研究	６．最初と最後の頁 67-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11380/americanreview.54.0_67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Jae Young Cha	４．巻 99
２．論文標題 Wilbur Schramm, Propaganda War Research, and the Institutionalization of Communication Studies	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Korean Journal of Communication and Information	６．最初と最後の頁 272-297
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.46407/kjci.2020.02.99.275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Heo Eun	４．巻 41
２．論文標題 The Bottom-up Cold War, Link and Feedback- The Transition of the U.S. Cold-War Strategy and Civic Action by Korean Medical During 1957-1963	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Critical Studies on Modern Korean History	６．最初と最後の頁 417-456
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.36432/CSMKH.41.201904.10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yang Zhang	４．巻 28(2)
２．論文標題 The Exploitation and Utilization of Private Archives in the United States: Restoring the Socio-cultural Scene of the Cold War	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Cold War International History Studies	６．最初と最後の頁 200-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yang Zhang	4．巻 11
2．論文標題 An Analysis of the American Voluntary Organizations and the Shaping of Asian Female Identity from the Cold War Perspective, 1949-1969	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Social Science Front	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土屋由香	4．巻 第41号
2．論文標題 「反核」と「反共」―1950年代における科学技術雑誌『原子力科学者会議』と文化自由会議―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『アメリカ史研究』	6．最初と最後の頁 36-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土屋由香・奥田俊介・進藤翔大郎	4．巻 第91集
2．論文標題 資料紹介：「スプラーグ委員会報告書」（1960年12月）抄訳と解説	5．発行年 2019年
3．雑誌名 英文学評論	6．最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土屋由香	4．巻 976
2．論文標題 アメリカ製軽水炉の選択をめぐる情報・教育プログラム―1950年代末の日米関係―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 歴史学研究増刊号	6．最初と最後の頁 129-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川島真	4．巻 0
2．論文標題 日華断交之前日本対台湾海峡的立場和論述―第二次台湾海峡危機時期為主	5．発行年 2018年
3．雑誌名 馬祖―戦争与和平島嶼国際学術研討会論文集	6．最初と最後の頁 285-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川島真	4．巻 72巻5号
2．論文標題 米中関係の長期的な点展望	5．発行年 2018年
3．雑誌名 中国研究月報	6．最初と最後の頁 16-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 第19号
2．論文標題 M.L.オズボーンの捕虜教育工作と「貫戦史」としての心理戦	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Intelligence	6．最初と最後の頁 38-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 第93号
2．論文標題 メディア史研究におけるマルチ・アーカイヴァルな研究手法の可能性－資料調査における自らの反省と教訓を踏まえて	5．発行年 2018年
3．雑誌名 マス・コミュニケーション研究	6．最初と最後の頁 17-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 第56号
2．論文標題 M. L. Osborne’s Experience of the POW Orientation Program and Psychological Warfare as Trans-War History（韓国語論文）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 梨花史学研究	6．最初と最後の頁 103-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 隅田学	4．巻 68
2．論文標題 科学の祭典―科学を文化化する―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 理科の教育	6．最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kawashima Shin	4．巻 24
2．論文標題 Toward China's “Hub and Spokes” in Southeast Asia? ? Diplomacy during the Hu Jintao and First Xi Jinping Administrations	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Asia-Pacific Review	6．最初と最後の頁 64-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13439006.2017.1415565	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川島　真	4．巻 4
2．論文標題 東亜国際政治史―圍繞中国的国際政治史与中国外交史	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本国際政治学　第四巻　歴史中的国際政治	6．最初と最後の頁 66-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林　聡明	4．巻 54-2
2．論文標題 アジア太平洋地域における戦時情報局（OWI）プロパガンダ・ラジオ― 朝鮮語放送の実態解明に向けた基礎的分析	5．発行年 2017年
3．雑誌名 政経研究	6．最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林　聡明	4．巻 11
2．論文標題 巻頭言	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジャーナリズム＆メディア	6．最初と最後の頁 7-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林　聡明	4．巻 11
2．論文標題 GHQ 占領期日本のジャーナリズム教育とモット博士：1947 年3～4 月―日本人教授らとの学術交流を中心に―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジャーナリズム＆メディア	6．最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林　聡明	4．巻 11
2．論文標題 韓国の言論学研究の動向	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジャーナリズム＆メディア	6．最初と最後の頁 277-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計52件（うち招待講演　4件／うち国際学会　36件）

1．発表者名 Yuka Tsuchiya
2．発表標題 Space as an Arena for Public Diplomacy: USIS Films on Space Development in the Early Cold War Era
3．学会等名 Association for Asian Studies in Asia（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 Yuka Tsuchiya
2．発表標題 The Michigan Memorial Phoenix Project and the Republic of China (ROC): Nuclear Technological Aid by a U.S. Public University
3．学会等名 Online Roundtable Knowledge as Diplomacy: U.S. and East Asia in the Cold War（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Yuka Tsuchiya
2．発表標題 The CIE and USIS Films in Japan: Historiographical Analysis
3．学会等名 Excavated Footage, US Archives, and Alternative Historiography（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Shin Kawashima
2．発表標題 The United States and Taiwanese Sinology during the Cold War: The Ford Foundation and the Institute of Modern History, Academia Sinica
3．学会等名 Online Roundtable Knowledge as Diplomacy: U.S. and East Asia in the Cold War（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Somei Kobayashi
２．発表標題 Intellectual Interactions between the US and Korea: From the mid-1940s to the early 1950s - Mr./Mrs. McCune and the Rockefeller Foundation at the Dawn of Korean Studies
３．学会等名 Online Roundtable Knowledge as Diplomacy: U.S. and East Asia in the Cold War（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shinsuke Tomotsugu
２．発表標題 Science of the Twilight Empire: The British Atomic Diplomacy in the Era of Decolonization
３．学会等名 Online Roundtable Knowledge as Diplomacy: U.S. and East Asia in the Cold War（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Masaki Fujioka
２．発表標題 Debates on Modernization Theory between the United States and Japan in the 1960s: Discrepancies in Value Systems and Perspectives on History
３．学会等名 Online Roundtable Knowledge as Diplomacy: U.S. and East Asia in the Cold War（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuka Tsuchiya
２．発表標題 Nurturing Asian "Nuclear Elites": The Argonne International School of Nuclear Science and Engineering (ISNSE), 1955-1960
３．学会等名 15th International Conference on the History of Science in East Asia (ICHSEA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yuka Tsuchiya
２．発表標題 The Michigan Memorial Phoenix Project: Nuclear Technological Aid at Grassroots?
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Miriam Kingsberg Kadia
２．発表標題 Cold War Collaborations: Japanese Studies in the United States, 1945-1960
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shin Kawashima
２．発表標題 The United States and Taiwanese Sinology during the Cold War: The Ford Foundation and the Institute of Modern History, Academic Sinica
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Heo Eun
２．発表標題 Cold War from the Bottom’ and Public Diplomacy: U.S. strategy for the Cold War in East Asia and the Development of Korea Military’s Civic Action
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shinsuke Tomotsugu
２．発表標題 The British Atoms for Peace Campaign For the Commonwealth and Postcolonial Regions
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Somei Kobayashi
２．発表標題 Area Studies as Cold War Knowledge and Dynamism of Intellectual Hegemony: The Emergence of Korean Studies and its Development at the US Universities
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Masaki Fujioka
２．発表標題 Forming Modernization Theory between the United States and Japan
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shichi Lan
２．発表標題 How the Cold War Shaped ‘China’: U.S. Aid, Chinese Overseas Students in Taiwan, and Overseas Chinese Media
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藍適齋
２．発表標題 美援、僑生、與中華民國的高等教育
３．学会等名 東南亞主題系列講座，國立臺灣大學歷史系學生會
４．発表年 2019年

１．発表者名 藍適齋
２．発表標題 冷戰助中國：美援、僑生、與海外華人媒體
３．学会等名 超越1945／1949之外：時代變遷與政治抉擇的東亞經驗、學術研討會
４．発表年 2019年

１．発表者名 藍適齋
２．発表標題 冷戰宣傳尖兵：中華民國的新聞教育與東南亞僑生」，1955-1965年，「自由、民主、人權與近代東亞
３．学会等名 學術研討會，東京大學（國立政治大學合併）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 藍適齋
２．発表標題 冷戰、美援、與1949年以來臺灣的高等教育：以政治大學爲焦點
３．学会等名 困境與重生：中華民國遷臺70週年學術研討會，國立政治大學人文中心
４．発表年 2019年

１．発表者名 藍適齋
２．発表標題 美援與1950-60年代臺灣的高等教育
３．学会等名 「戰後臺灣：微觀研究與宏觀視野」工作坊，香港中文大學臺灣研究中心（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Zhang, Yang
２．発表標題 The Cold War, the American Overseas Educational Exchanges and the Development of Journalism and Communication Education in Hong Kong
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manyong Moon
２．発表標題 Ecological Survey of the DMZ and the Growth of Biology in South Korea
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Hiromi Mizuno
２．発表標題 Fixing Nitrogen in Cold War Asia: Fertilizer Diplomacy
３．学会等名 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 川島真
２．発表標題 The 1958 Taiwan Crisis and Japan: The Sino-American Mutual Defense Treaty and Japan-American Mutual Cooperation and Security
３．学会等名 Cambridge Workshop: The Cold War and Post-War Taiwan, at Faculty of Asian and Middle Eastern Studies, University of Cambridge（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 川島真
２．発表標題 日中間の歴史「和解」の道程と課題
３．学会等名 植民と冷戦の羈絆―東アジア過去史清算の成果と課題
４．発表年 2018年

１．発表者名 川島真
２．発表標題 Chinese view on trade issue and North Korea Problem
３．学会等名 Trade Battles, North Korea, and U.S.-Japan China Policy,Carnegie Endowment for International Peace（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 土屋由香
２．発表標題 US Science and Technology for Public Diplomacy and 'Reverse' Public Diplomacy: The 'Clean Bomb' controversy and the Geneva Conference of 1958
３．学会等名 國立政治大學「冷戰與近代東亞工作坊」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 土屋由香
２．発表標題 アメリカ製軽水炉の選択をめぐる情報・教育プログラム―1950年代末の日米関係―
３．学会等名 歴史学研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 土屋由香
２．発表標題 Choosing "Friendly Nations" to Share Nuclear Reactors: U.S. Bilateral Agreements with Asian Countries in the Late 1950s and teh early 1960s
３．学会等名 Nuclear Diplomacies: Their Past, Present, and Future (Sokendai Hayama Campus, Co-sponsored with National Technical University of Greece)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 Korean Studies at U.S. Universities during the Cold War: The Production of Area or Religion Specific Knowledge and the Role of Private Foundations
３．学会等名 國立政治大學「冷戰與近代東亞工作坊」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 戦後日本のジャーナリスト教育とコロンビア大学-1940年代後半～50年代の日本人派遣プログラムと民間財団の役割を中心に-
３．学会等名 日本大学法学部新聞学研究所　新聞学科70周年・新聞学研究所10周年記念シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 アメリカにおける韓国研究と冷戦：地域を取り巻く知識生産と民間財団の役割
３．学会等名 Cold War and Public Diplomacy (Korea University, Seoul)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 Journalist Training Programs and Private U.S. Foundations: An Analysis of U.S. Tour of Japanese Journalists (1949-50) and Journalism Education in 1950s-60s
３．学会等名 台湾国立政治大學研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 隅田学
２．発表標題 Changes of Trends in Chemistry Research Modes and Imperative Needs of Chemistry Education for Gifted Children
３．学会等名 The 10th International Conference on Chemistry Education and Research (Oslo, Norway)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 川島　真
２．発表標題 作為思想的対華外交：従外交現場審視蔣介石・中華民国・台湾
３．学会等名 “第四届蔣介石与近代中国”国際学術研討会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 川島　真
２．発表標題 冷戦期中華民国の対外政策と宣伝ー尖閣諸島／釣魚台列嶼問題の形成過程におけるー
３．学会等名 アジア政経学会秋季大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 川島　真
２．発表標題 金門島からみる冷戦史ーアジア域内からみる戦後史の可能性
３．学会等名 シンポジウム「境界を超える占領・戦後史」占領・戦後史研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 KAWASHIMA Shin
２．発表標題 THE FORMATION SENKAKU/DIAOYU DISPUTES AND THE MEDIA'S STANDPOINTS TO BAODIAO MOVEMENT: A CASE STUDY ON PROPAGANDA OF THE KMT GOVERNMENT
３．学会等名 WORKSHOP ON COLD WAR AND KNOWLEDGE IN EAST ASIA（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林　聡明
２．発表標題 日本大学新聞学科と冷戦（1）ー 米国文書から見る Frank Luther Mott 教授の役割ー
３．学会等名 日本大学法学部新聞学研究所 2017 年度 第 1 回研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小林　聡明
２．発表標題 韓国研究の形成と冷戦－韓国外交文書の分析を中心に
３．学会等名 アジア政経学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小林　聡明
２．発表標題 戦後東アジアの新聞学／マスコミ研究の系譜学－冷戦とアメリカの視点から
３．学会等名 日本マスコミュニケーション学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小林　聡明
２．発表標題 Psywar Network and Japan-Tokyo, Koje-do, and Okinawa
３．学会等名 国際シンポジウム『朝鮮戦争と東アジアの捕虜：選択と「中立」』梨花女子大学（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小林　聡明
２．発表標題 Journalism Education in Postwar East Asia: Focusing on the Role of Dr. Frank L. Mott during the Allied Occupation of Japan
３．学会等名 Workshop on Cold War and Knowledge in East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 土屋　由香
２．発表標題 アメリカ製原子炉のアジアへの拡散ー冷戦初期のおけるソフトパワーとしての原子力研究
３．学会等名 アジア政経学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 土屋　由香
２．発表標題 Japan's Decision to Introduce U.S. Nuclear Reactors in the late 1950s: U.S. Information Campaign to Influence the Japanese Industry
３．学会等名 Workshop on Cold War and Knowledge in East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計11件

１．著者名 Hideki Fujiki, Alastair Phillips	４．発行年 2020年
２．出版社 British Film Institute	５．総ページ数 384
３．書名 The Japanese Cinema Book	

１．著者名 土屋 由香	４．発行年 2021年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 350
３．書名 文化冷戦と科学技術	

1．著者名 Miriam Kingsberg Kadia	4．発行年 2019年
2．出版社 Stanford University Press	5．総ページ数 344
3．書名 Into the Field: Human Scientists of Transwar Japan. Stanford, CA: Stanford University Press	

1．著者名 Miriam Kingsberg Kadia	4．発行年 2019年
2．出版社 Chicago University Press	5．総ページ数 174
3．書名 How Knowledge Moves: Writing the Transnational History of Science and Technology, edited by John Krige	

1．著者名 土屋由香（共著）	4．発行年 2018年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 322
3．書名 情報がつなぐ世界史	

1．著者名 川島真（共著）	4．発行年 2018年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 288
3．書名 日中戦争と中ソ関係―1937年ソ連外交文書　邦訳・解題・解説	

1．著者名 小林聡明（共著）	4．発行年 2018年
2．出版社 チニンジン（ソウル）	5．総ページ数 448
3．書名 熱戦のなかの冷戦、冷戦のなかの熱戦-冷戦アジアの思想心理戦	

1．著者名 土屋　由香（共著）	4．発行年 2017年
2．出版社 ソミョン出版社	5．総ページ数 583
3．書名 東アジア冷戦の文化（韓国語）	

1．著者名 菅　英輝、初瀬　龍平、森　聡、土屋　由香、ブルース・カミングス、黒崎　輝、崔　歪、鄭　敬娥	4．発行年 2017年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 230
3．書名 アメリカの核ガバナンス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小林　聡明 (Kobayashi Somei) (00514499)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	
研究分担者	隅田　学 (Sumida Manabu) (50315347)	愛媛大学・教育学部・教授 (16301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	川島　真 (Kawashima Shin) (90301861)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	三澤　真美恵 (Misawa Mamie) (90386706)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	削除：平成29年8月3日

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	友次　晋介 (Tomotsugu Shinsuke)		
研究協力者	藤岡　真樹 (Fujioka Masaki)		
研究協力者	佐藤　悠子 (Sato Yuko)		
研究協力者	中生　勝美 (Nakao Katsumi)		
研究協力者	キングズバーグ　ミリアム (Kingsberg Miriam)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	文　晩龍 (Moon Manyong)		
研究協力者	リン　ジェイムズ (Lin James)		
研究協力者	ミズノ　ヒロミ (Mizuno Hiromi)		
研究協力者	藍　適齊 (Lan Shichi)		
研究協力者	張　楊 (Zhang Yang)		
研究協力者	車　載永 (Cha Jae Yong)		
研究協力者	許　殷 (Heo Eun)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計6件

国際研究集会	開催年
Online Roundtable Knowledge as Diplomacy: U.S. and East Asia in the Cold War	2021年～2021年

国際研究集会 Public Diplomacy of Knowledge: Cold War in East Asia and the United States	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際ワークショップ「冷戦期アジアにおける科学技術の交流と制度化」（京都大学）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 「冷戰與近代東亞工作坊」（台湾・國立政治大學）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Cold War and Public Diplomacy（韓国・高麗大学）	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Workshop on Cold War and Knowledge in East Asia（台湾国立政治大学）	開催年 2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	コロラド大学	インディアナ大学	ワシントン大学	
韓国	忠南大学校	高麗大学校	全北大学校	
中国	浙江大学			
その他の国・地域	台湾国立政治大学			